NEWS　RELEASE

国土交通省

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先
（所属）　海事振興部船員労政課
（担当）　吉武、武田
（電話）　06-6949-6435

平成３０年４月１３日

海のない奈良県の子どもたちに海を知ってもらう！
帆船「みらいへ」で体験航海を実施しました

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える内航船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの、いまだ約半数が５０歳以上となるなど高齢化は著しく、大量離職に伴う担い手不足が生じないように十分な数の若年船員の確保が必要とされています。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、中長期的視点に立った取り組みとして、近畿内航船員対策協議会と協力し、各種乗船体験を実施しています。

今般、奈良県の子どもたちに海運と船員を紹介し、そして将来に夢を持ってもらうため、平成３０年４月７日（土）に帆船「みらいへ」の船内で体験航海を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日：平成３０年４月７日（土）
実施場所：一般社団法人グローバル人材育成推進機構「みらいへ」船内
寄港地：神戸港～大阪港
対象者：奈良県の小学生４６名と補助者２２名　計６８名
主催者：キッズ&OB 倶楽部

配布先：海運関係業界プレス

～海のない奈良県の子どもたちに海を知ってもらおう～
帆船『みらいへ』の体験航海を実施しました

平成３０年４月７日（土)、近畿内航船員対策協議会（会長：上窪良和　田渕海運(株)顧問）は、一般社団法人グローバル人材育成推進機構の帆船『みらいへ』において、奈良県の小学生及び保護者を対象とした体験航海を実施しました。

本企画は、奈良県のボランティア団体であるキッズ&OB 倶楽部が、海のない奈良県の子どもたちにまずは海や船に触れてもらおうと毎年実施されています。今回、海や船に関する仕事に対して、１人でも多くの子どもたちに将来、進路の選択肢の一つとして考えてもらうべく、当協議会と共同で開催した結果、当初の想定を上回る多数の応募があり、６８名（１年生～６年生の小学生４６名、保護者２２名）が参加しました。

神戸港から大阪港までの航海のなかで、子どもたちは、セイルハンドリング、操船体験、船内見学、ロープワーク・クラフトづくりやヤシの実を使ったゲームなどを楽しみました。その中で風の強さや船の揺れ、潮風を体感し、船を動かしている船員（乗組員）と直に接しました。子どもたちには、初めての貴重な体験になったものと思われます。また、通常の見学会等と違い、実際に船を動かす作業に取り組んだことにより、強く心に残ったものではないかと思われます。

子どもたちに感想を聞いたところ、「寒かったけど、楽しかった。」「船員さんって休みが１ヶ月もあるんや。ええなあ」「また、船に乗りたい。」「将来は船員さんになりたい」といった声があり、そして保護者の皆様も船員さんに積極的に質問するなど、海や船、そして船員という仕事に対して、好印象をもったものと思われます。

【乗船式の様子】

乗船式では、主催者を代表して、会長より船員不足の現状について説明した後、「将来の選択肢として船員という素敵な職業があり、１人でもいいからこの中から船員になってほしい」と挨拶がありました。

その後、船長から船の上でのルールの説明がありました。事故予防のためポケットハンド禁止等、ルールを守っていない時には厳しい言葉もありましたが、船員の安全に対する意識が伝わったのではないかと思います。

【デッキやブリッジでのミニフェスタの様子】

『みらいへ』には海王丸や日本丸の乗船経験もある、経験豊富な船員が乗船しています。
楽しみながら、子どもたちも船員の世界の一部を知ることができたのではないかと思います。

操船体験

甲板を磨くヤシの実を高く積むゲーム

ロープワーク

双眼鏡で船舶の見張りを体験

【セイルハンドリングの様子】

当日は風が強く、波と風が少し穏やかな大阪港内に入ったところでジブ（船首に張られる三角形の帆）１枚のセイル（帆）を張る作業『展帆』を実施しました。決められたかけ声を出しながら、ロープをタイミング良く引っ張り、最初は小さかったかけ声も次第に大きなものに。力を合わせて張ったセイルは風になびきました。その後、セイルを畳む作業『畳帆』にとりかかり、お互い声をかけあいながら無事に畳み終えることができました。

最後に甲板で下船式が執り行われ、船長から乗船証明書を授与されました。当協議会からも、記念品として、子どもたちにまんが形式のパンフレットやライト付ボールペンを配布しました。
今回の体験では、非常に風が強く、残念ながらバウスプリット渡りや帆走は実施できませんでしたが、代わりに天候の変化に臨機応変に対応する船員の姿を見せることができました。そして何より事故もなく、全員笑顔で帰途に着くことができました。

このような体験を通じて、「海と船」に興味を持ってもらい、船員という職業を将来の進路の選択肢のひとつとして考えてもらえるよう、これからも子どもたちのために、取り組んでいきたいと考えています。

（近畿運輸局　海事振興部　船員労政課）